

CHIHOMEN NEWS

旧軍用財産を活用した 舞鶴市の地域活性化

「地域のために何かできることはないやろか？」

を合言葉に活動続けるTeamちほめん。

Teamちほめんとは近畿財務局の若手有志職員が、地域の課題解決のため何かお手伝いできないか、近畿2府4県各地にお邪魔し、様々な企画を提案し、スタッフとして実行していくおせっかいな(?)団体です(ちほめんとは地方創生企画推進メンバーという長い名前の愛称です)。



今回は平成29年10月17日～18日に、舞鶴市で開催した「旧軍用財産を活用した舞鶴市の地域活性化」というイベントの活動報告です。

このイベントは、京都府舞鶴市に所在する「旧軍用財産」のうち、将来観光などでの活用が見込まれる財産を、舞鶴市や京都府、商工会議所の幹部や関係機関の長など、有識者の方々にご覧いただくというもので、新たな観光資源の発掘を通じて、今後の舞鶴市の地方創生・地域活性化につながれば、という思いから開催したものです。

企画に至る経緯から当日までの模様を、簡単にご紹介させていただきます。

○今回のイベントについて、その中身をご紹介する前に、開催に至るきっかけや経緯などについて、簡単にご説明します。

(1) 旧軍用財産ってなに・・・？

○まずはじめに、聞き馴染みのない「旧軍用財産」という言葉について、ご説明します。

○旧軍用財産とは、戦前、旧日本軍（陸軍や海軍）が所有していた土地や建物などで、戦後、財務省（※）が旧日本軍から引継いで管理している国有財産のことを指します。

○舞鶴市など、戦前に旧日本軍の大きな基地や港があった場所には旧軍用財産がたくさんあります。

○旧軍用財産は戦後、財務省から市町村や民間企業に譲与等され、有効に活用されています。



自衛隊の護衛艦の後方に見える工場群
（旧舞鶴海軍工廠、現ジャパンマリンユナイテッド(株)）



舞鶴観光の人気スポットの赤れんがパーク
（旧舞鶴軍需部など）

○舞鶴市では、「赤れんがパーク」や「舞鶴市引揚記念公園」など、市内の主要な観光施設の多くが旧軍用財産を活用したものとなっており、旧軍用財産が舞鶴の街づくりに大きく貢献しています。

○戦後70年以上が経過し、旧軍用財産のうち、170件以上が舞鶴市などに譲与等され、活用されてきましたが、舞鶴市にはまだ利活用されていない旧軍用財産もいくつかあります。

※当時は旧大蔵省（以下同じ）

(2) 舞鶴市幹部らからの熱烈なオファー

○舞鶴市でまだ利活用されていない旧軍用財産の中には

- ・「防空指揮所として作られた巨大な地下壕」
- ・「映画『日本のいちばん長い日』のロケ地となった火薬庫跡やその周辺の遺構」
- ・「舞鶴湾に浮かぶ、上陸禁止の無人島」

など、観光資源となる可能性を秘めているものが、いくつもあります。

○このことを舞鶴市の幹部にお話ししたところ「ぜひとも一度視察してみたい！」との強い要望が寄せられました。同様の声は京都府や、地元商工会議所の幹部からも聞かれました。



○こうした声をきっかけに、観光資源の発掘を通じて、地域活性化につながるかもしれないとの思いから、上記3件の旧軍用財産について、視察会を実施しようという企画を立ち上げました。

2 旧軍用財産を「どう」見てもらうか？

○こうして、旧軍用財産の視察会に向け、企画内容を検討するうち、**旧軍用財産を「どう」見てもらうか**、という点で問題にぶつかりました。

(1) そのままではダメ！

見ていただく旧軍用財産は、下記3か所としました。

① 東山特設防空指揮所

→「防空指揮所として作られた巨大な地下壕」

② 旧海軍第三火薬廠跡

→「映画のロケ地となった火薬庫跡やその周辺の遺構」

③ 戸島・蛇島

→「舞鶴湾に浮かぶ、上陸禁止の無人島」

○しかしながら、改めて現地を確認したところ、いずれもそのままではただの「洞窟」や「草むら」と化していました。

○視察会を行うにあたって、「**どう見てもらうか**」を意識しなければ、効果は薄くなってしまわないか・・・と危機感を抱きました。



(2) 視察会に向けて、検討に検討を重ね・・・

○そこで、旧軍用財産の**見取り図や歴史的背景がわかる資料**を作ることになりました。さらに、当日は資料だけでなく、パネル展示や口頭説明を付け加えて、より臨場感が得られるよう、工夫することになりました。



作成したパネル資料を掲示する当局職員

○さらに、**安全対策**にも留意しました。地下壕も火薬庫跡も電気が全くない箇所、太陽の光も届かないため、足元が非常に不安でした。さらに地下壕は急斜面に位置しており、そこへ至る道も険しいなど、不安がいっぱいでした。



手すり設置後のようす
地下壕は急斜面の下に



草刈りをする前のようす
奥にある建物が全く見えない

○これらについては、照明器具を購入したり、手すりを設置したりして安全対策を施しました。

○併せて、対象がより見やすくなるよう、でこぼこ道の整地や、草刈りなどを行いました。

○また、無人島へ向かう船についても、どうしようか困っていたところ、関係機関の協力を得ることができました。

○以上のとおり、旧軍用財産の見せ方について、たくさんの検討事項がありましたが、検討に検討を重ねるとともに、多くの方にご協力をいただき、無事視察会当日を迎えられました。

(参考) 当日配布した資料から歴史的背景の部分を抜粋・・・

身近なところにある『旧軍用財産』

旧海軍東山防空指揮所の歴史

1938年 (昭和13年) 防空指揮所地下壕の建設開始

1944年 (昭和19年) 地下壕の建設完了 特設防空指揮所として運営開始

1945年 (昭和20年) 終戦

1946年 (昭和21年) 連合国軍総司令部 (GHQ) の指示により、地下壕爆破

1986年 (昭和61年) 前島ふ頭の埋め立に東山の土砂を採取することが決定一躍、脚光を浴びる

○東山は旧海軍が舞鶴港の要衝として、山頂防空指揮所を建設するなど、活用されていました。

○右写真は昭和60年ごろの山頂防空指揮所

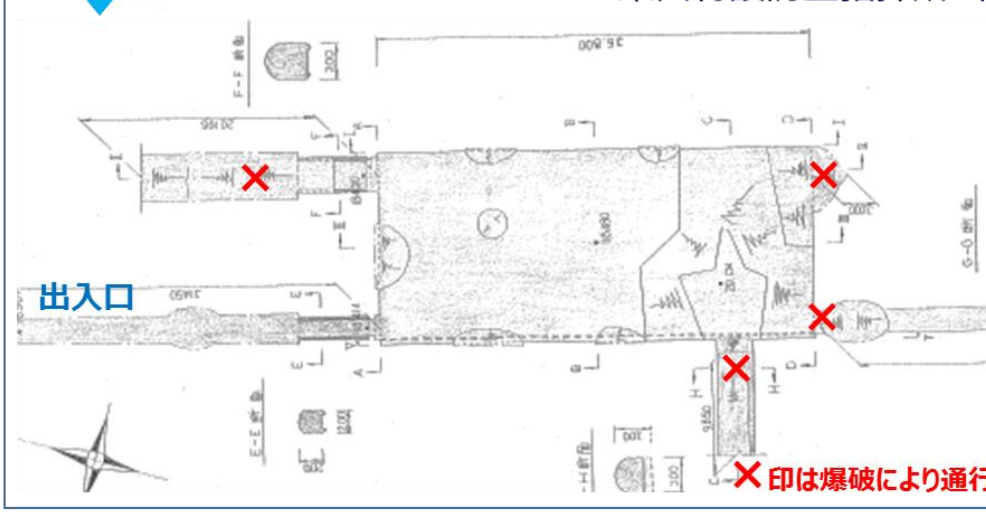
○戦時中は主に下記の業務で使用されました。

- ①指揮室・・・日本海方面の作戦指揮を担当
- ②電話交換室・・・司令部と各砲台等の通信を担当
- ③有線情報室・・・情報の解読・報告を担当
- ④部外近情報・砲台情報室・・・管区外情報の授受を担当

○地下壕の中は二階建てで、士官が寝泊まりする部屋もありました。

○左写真は山頂が削られる前の東山

○前に見える旧東山合同宿舎と比べ、東山の高さが際立っています。



東山特設防空指揮所 内部見取り図

→旧海軍第三火薬廠跡の歴史について、戦前から戦後への年表と、その時々の特ピックについて説明しています。

○右下の地図は、実際に見ていただいた火薬庫周辺の地図です。

身近なところにある『旧軍用財産』

旧海軍第三火薬廠跡の歴史

1939年 (昭和14年) 既存の火薬廠の移転のため、用地買収を開始

1940年 (昭和15年) 用地買収完了、翌年より海軍第三火薬廠として操業開始

1945年 (昭和20年) 終戦

2015年 (平成27年) 映画「日本のいちばん長い日」のロケ地の1つとして活用される

○もともと火薬廠は別の場所にありましたが、手狭になり、安全上の問題が出てきたことから、移転が行われました。

○旧海軍による買収により、家屋や田畑が移転を余儀なくされました。

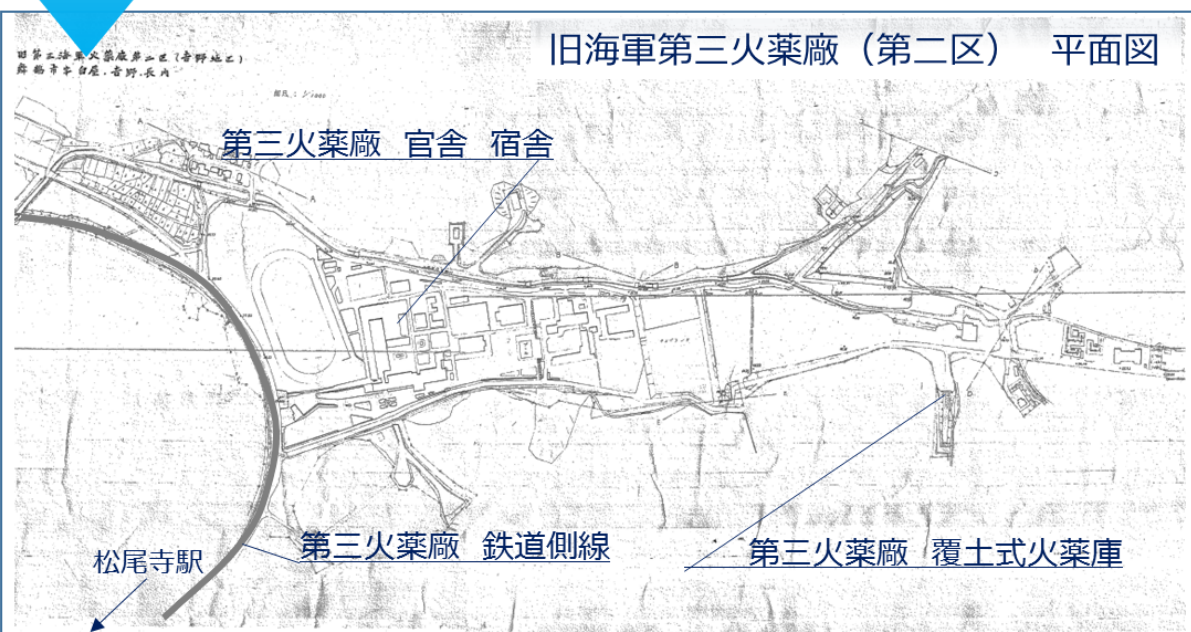
○火薬廠と呼ばれる大規模な火薬工場は日本全国に3か所ありました。東より順に、

- 第一火薬廠 (宮城県船岡町、元海軍火薬廠船岡支廠)
- 第二火薬廠 (神奈川県平塚市、元海軍火薬廠平塚本廠)
- 第三火薬廠 (京都府舞鶴市、元海軍舞鶴爆薬部)

○終戦後、火薬廠の一部は青葉山ろく公園として国から舞鶴市へ譲与されました。

○「日本のいちばん長い日」のロケ地として、第3火薬廠では、覆土式火薬庫が使用されました。

○映画内では、首相官邸の防空壕という設定で使用されています。



旧海軍第三火薬廠 (第二区) 平面図

3 旧軍用財産視察会当日の様様

- 当日は8機関（合計58人）が参加し、大盛況でした。
- 当日の様様をそれぞれの旧軍用財産ごとにご紹介します。

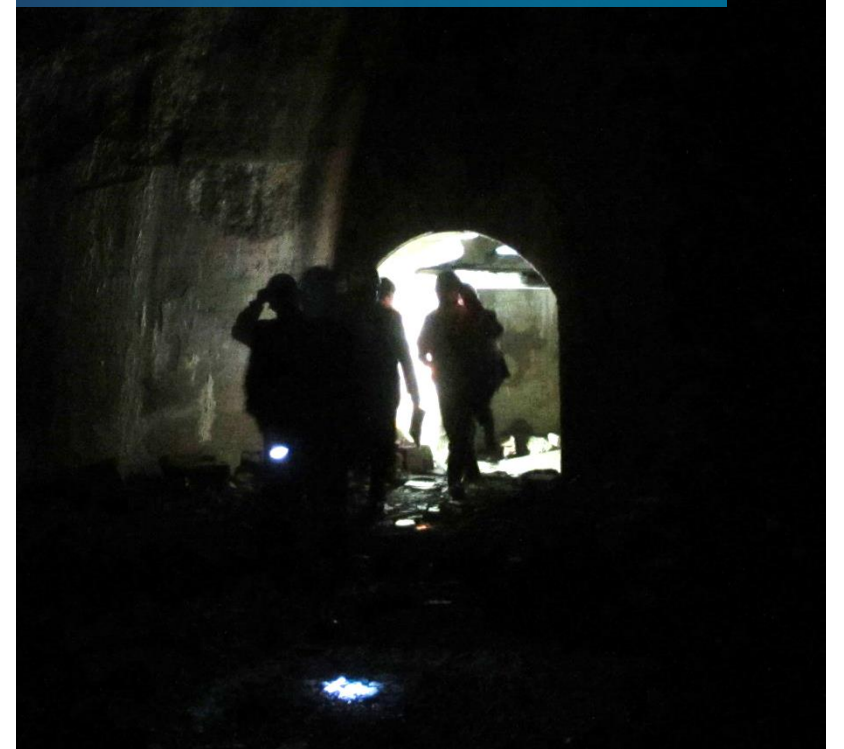
① 東山特設防空指揮所

「防空指揮所として作られた巨大な地下壕」

●実際に地下壕に入ってもら
う前に、旧軍用財産の沿革な
どについて参加者の方に向け、
現地説明を実施しました。



●地下壕入り口付近
並みの懐中電灯では太刀打ち
できない暗さです。



●地下壕内部
中の空気は湿り気を帯びて、外よりも一段ひんやりとしており、神秘的な雰囲気も感じられました。

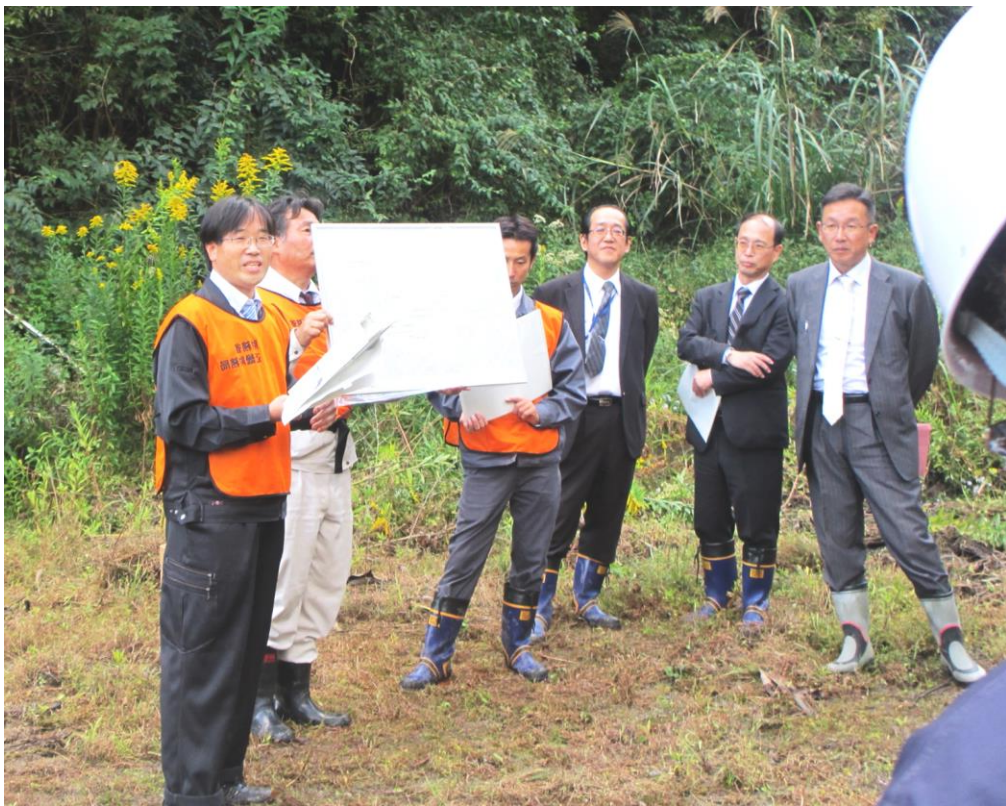


●内部はテニスコート2面分がすっ
ぽり入る広さで、2階建てのビルが
まるごと入るほどの高さがあります。

② 旧海軍第三火薬廠

「映画『日本のいちばん長い日』のロケ地となった火薬庫跡やその周辺の遺構」

(平成27年8月公開)



●旧海軍第三火薬廠 覆土式火薬庫跡
「覆土式」とは火薬庫の作り方の一つで、70年もたった覆土式火薬庫がこのような形で現存するのはとても珍しいそうです。



↑非常に重厚な鉄の扉・・・のように見えますが、実は映画撮影用の木製レプリカです。



●覆土式火薬庫跡内部
奥行き50m以上あります。



●旧海軍第三火薬廠 周辺の遺構
山道を歩いていると唐突に姿を現す遺構には、舞鶴の自然と相まって、独特の美しさが秘められています。



③ 戸島・蛇島

「舞鶴湾に浮かぶ、上陸禁止の無人島」



●乗船前に戸島・蛇島の概要などを説明



●戸島 舞鶴湾内で最大の島



●蛇島 面積は戸島の1/4しかない



●蛇島を東西に貫くトンネル
今回上陸するまで、誰もこのトンネルの存在は把握していませんでした。新たな観光資源となりうる遺構で、素晴らしいサプライズとなりました。内側がレンガ造りのものもあり、歴史を感じました。

4 最後に

○今回も地域で抱える課題解決の一助になればとの思いから、ニーズを把握し、当局の得意分野である国有財産を活用する形で、関係するみなさまのご協力を得て、旧軍用財産の視察会を開催することができました。

○お越しいただいたみなさまが旧軍用財産を見ながら、「**身近な場所にこんなところがあったのか！**」と笑顔をこぼされる姿や、これからの活用法についてお話しされている姿を見ると今回の取り組みが少しでも地域のためになったのかな、と胸をなでおろしたところです。



舞鶴市 山口 副市長

○ご紹介した財産のうち、**東山特設防空指揮所は旧軍港市日本遺産WEEKというイベントで一般の方向けにも開放**（先着30名）し、**好評を博しました。**

○息の長い取り組みである地方創生においては、今回の舞鶴市における旧軍用財産の活用による地域活性化もスタートをきった段階に過ぎません。

○今回の企画での内容・発見をきっかけに、より一層地方創生に向け邁進していきたいと考えています。そしてそのために、当局として引き続き、次のステップでの支援企画の検討に取り組んでいきたいと思ひます。

今回の企画でお世話になった方々、本当にありがとうございました。

舞鶴市
京都府中丹広域振興局
舞鶴商工会議所
近畿地方整備局 舞鶴港湾事務所
日本政策金融公庫 舞鶴支店
舞鶴警察署
海上自衛隊舞鶴地方総監部
旧軍用財産視察会にご参加いただいた皆さま

チーム 舞鶴ちほめん一同。
菊谷、徳田、山田、島本、藤原、岩本、神谷

